

© World Boxing

銅 2等陸尉 牧野草子

銅 3等陸尉 北本隼輔



ワールドボクシングチャンピオンシップリバプール2025

令和7年9月4日（木）～14日（日）の間、リバプール（イングランド）において「ワールドボクシングチャンピオンシップリバプール2025」が開催され、第2教育課ボクシング班から男子50kg級に牧野草子（まきのそうし）2等陸尉、男子60kg級に北本隼輔（きたもとしゅんすけ）3等陸尉、女子57kg級に吉澤颯希（よしざわさつき）2等陸曹、女子60kg級に田口綾華（たぐちあやか）2等陸尉が参加し、牧野2尉と北本3尉が銅メダルを獲得し、田口2尉が5位入賞の成果を収めた。



男子50kg級に出場した牧野2尉は、第3シードで2回戦から出場し、ジョージアの選手に速い出入りと上下の攻撃で相手を翻弄し完勝した。準々決勝では強豪ウズベキスタンの選手と対戦し、ハイレベルな戦いで僅差のポイント勝ちを収めた。準決勝はモンゴルの選手と対戦し1Rは互角の内容、2R・3Rと牧野2尉のクオリティブローの数が相手を上回る試合内容に思えたが、2-3と僅差でのポイント負けとなった。試合後、牧野2尉は、「金メダルが獲れると思い挑んだ大会だったので、このような結果になり大変悔しい。しかし得たものがゼロではないので、今後の大会につなげていきたい。」と抱負を語った。

今大会43名と最も出場人数の多い男子60kg級に出場した北本3尉は、1回戦から3回戦までを欧米の選手3名に足を活かしたディフェンスとカウンターを活かした攻撃で危なげなく勝利。準決勝ではパリオリンピックチャンピオンであるウズベキスタンの選手と対戦し、北本3尉の有効打がヒットし始めたところで偶然のバッティングにより相手選手が負傷したため、そこまでのラウンドで採点され2Rポイント負けとなった。

試合後、銅メダルを手にした北本3尉は、「準決勝でパリオリンピックチャンピオンに負傷判定負けしたが、次回は勝つ自信がある。必ず世界一になる。」と力強く語った。

大会を終えて監督の本博国（もとひろくに）1等海尉は「今回出場した4選手は来年開催される愛知アジア大会に向けて新たな課題やキャリアアップの大会となり、良い経験となった。66カ国540名の選手が参加した今大会では世界の現状も確認できたので、個々の課題を克服していけば愛知アジア大会、ロス五輪において必ずメダルが獲得できると信じている。」と語った。ボクシング班は11月に開催される2025全日本ボクシング選手権大会での更なる活躍が期待される。（写真：World Boxing）

